

1. 東北クルーズカンファレンス

- 1) 日 時 令和4年12月6日(水) 13:30~16:00
- 2) 会議方式 web 会議方式
- 3) 参加者 構成団体、オブザーバー 57名、講演者2名
- 4) 内 容

東北のクルーズ振興を目的として、コロナ禍における安心で安全な国際クルーズの再開に向け、クルーズ業界を取り巻く諸情勢やクルーズ船社や観光関係者による安全対策等について、講演及び意見交換等を行った。

始めに、東北クルーズ振興連携会議の事務局を代表して、東北地方整備局成川港湾空港部長から挨拶を行い、続いて、クルーズ振興・港湾物流企画室佐藤室長より、11月15日に公表された国際クルーズ運航のための感染拡大予防ガイドラインの概要を説明した。

カンファレンスでは、コロナ禍におけるクルーズの運航状況やクルーズ船社における感染対策等の取組、寄港地や観光事業者との連携などを事業実施者からの視点で(株)MSCクルーズジャパン黄氏、(株)ジャパネットサービスイノベーション荒木氏からご講演いただいた後、外航クルーズ再開後のクルーズ振興や東北寄港の可能性などについて、意見交換等を行った。

最後に、東北経済連合会小野常勤顧問が挨拶を行い閉会した。

演題：『地中海の船会社 MSC クルーズの概要と日本寄港』

講師：株式会社 MSCクルーズジャパン

営業部 セールスマネージャー 黄 兆健 氏

要旨：コロナ禍以降、2021年にはMSC保有のクルーズ船の半数が運航を再開し、2022年初めには再開後延べ100万人が乗船した。今後、アジア太平洋地域のクルーズ運航が再開していく中で、日本市場が中心となり、盛り上げていきたい。



国際クルーズの再開にあたり、令和4年、MSCベリッシマが日本へ寄港すれば過去最大規模の大型客船となる。2023年春に寄港予定であり、24年~25年は日本国内での運航を予定している。東北地域は観光資源やおもてなし・サービスに富んでおり、欧米の利用者にとっても人気が高い。MSCクルーズとしても徹底した安全・衛生管理の下で運航しているため、安心して寄港を待っていてほしい。

演題：『クルーズ事業を地域の皆様と共に発展させていきたい』

講師：株式会社 ジャパネットサービスイノベーション

クルージング企画戦略部 シニアエキスパート 荒木 辰道 氏

要旨：ジャパネットは、通信販売とスポーツ・地域創生を柱に、「見つける」「磨く」「伝える」を企業理念として事業を展開している。クルーズ事業については、荷物の持ち運びや公共機関の乗り換え・乗り継ぎがない点もメリットで究極の旅行と言える。ジャパネットは、徹底したお客様想像力で旅行会社の概念にとらわれないサービスの提供にこだわりを持っており、ご乗船される皆様に満足していただけるよう地元の方々や行政の方々と連携し、さらに喜んでいただけるようなおもてなしを行っていきたいと考えている。特に寄港地での温かい歓迎は印象に残るため、歓迎イベントを始め、共に地域の魅力を伝えていきたいと考えているため今後ともご支援をお願いしたい。



カンファレンスの様子